

派遣専門家オリエンテーション資料

インドネシア・ジョグジャカルタ編

Republic of Indonesia

任国情報

1995年

JICA LIBRARY

J1124704[6]

国際協力事業団

国際協力総合研修所

JICA
C108
20
IIC
BRARY

はしがき

この任国情報は国際協力のために赴任される専門家およびJICA役職員等に、任国での生活上必要な事項についての情報を提供するものです。

本書の刊行にあたっては当該国に派遣中の専門家、プロジェクト調整員、また協力隊調整員等JICA関係者の皆様より多大な御協力を得ました。また、外務省、在外公館、その他関係機関の御好意により、貴重な資料の一部を利用させていただきました。

今後も、本書の内容を一層充実させ、常に、新しい情報の提供に努めたいと考えております。

本書が国際協力の分野で活躍される方々の参考となれば幸いです。

平成7年3月
国際協力事業団
国際協力総合研修所長

目次

I 概 況	1
II 生活事情	8
1. 食 生 活	8
2. 衣 料	12
3. 住 宅	15
4. 医 療	17
5. 教 育	20
6. 家庭の使用人	24
7. 交通事情	27
8. 通 信	29
9. マスコミ	30
10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ	31
11. その他のサービス	36
12. 観 光	37
13. 治安、緊急時の心得	38
14. 出入国手続および帰国手続	39
15. 私財の輸送、引き取り、購入	40
16. 社 交	41
17. 任国官公庁	42
18. 在外日本関係機関など	43
19. 地方都市	44



1124704 [6]

I 概 況

表1：インドネシア概況

a) 正式国名	(和文) インドネシア共和国 (英文) Republic of Indonesia
b) 独立年月日 旧宗主国	1945年8月17日 オランダ
c) 政 体	共和制
d) 元首の名称	大統領：スハルト (Soeharto) (1993年3月6選、任期5年)
e) 位置・面積	北緯6～南緯11度、東経95～141度 1,905千平方キロメートル (注1)
f) 首 都	ジャカルタ (Jakarta)
g) 総人口	181百万人 (1991年) (注1)
h) 民族等	300以上の種族からなる多民族国家で、主なものとしては、ジャワ族、スンダ族、ミナンカバウ族などがあげられる。
i) 公用語	インドネシア語
j) 宗 教	9割近くの国民がイスラム教徒であるが、信仰の自由は認められており、キリスト教徒、ヒンズー教徒、仏教徒なども存在する。
k) 暦	<p><日本との時差></p> <p>－2時間 (スマトラ、ジャワ、マドゥラ、西カリマンタン、中央カリマンタン)</p> <p>－1時間 (東カリマンタン、南カリマンタン、スラウェシ、バリを含むヌサトゥンガラ諸島)</p> <p>0時間 (マルク諸島、イリアン・ジャヤ)</p> <p><祝祭日> (1994) (注2)</p> <p>1月1日 新年</p> <p>* 1月10日 モハメット昇天祭 (Mi'raj Nabi SAW)</p> <p>* 3月14日 イドゥ・アル・フィットリ (Id al-Fitr)</p> <p>* 4月1日 キリスト受難日</p> <p>* 5月12日 キリスト昇天祭</p> <p>* 5月21日 イドゥル・アドハ (Id al Adha)</p> <p>* 6月10日 イスラム暦新年</p> <p>8月17日 インドネシア共和国独立宣言記念日</p> <p>* 8月19日 モハメット降誕祭 (Maulid Nabi SAW)</p> <p>12月25日 クリスマス</p> <p>* 12月30日 モハメット昇天祭 (Mi'raj Nabi SAW)</p> <p>(*は毎年日が変わる祝祭日)</p>

出所 (注1) World Development Report 1993 The World Bank

(注2) The Europa World Year Book 1993 Europa Publications Limited

(1) 国土の概要

国名のインドネシアは、ギリシャ語の「インドス (Indos)」と「ネソス (Nesos)」という2つの単語からなっており、「東インドの島々」という意味を持つ。その名のとおり、インドネシアは赤道をはさんで北緯6度から南緯11度、東経95度から141度に位置する、ジャワ、スマトラ、カリマンタン、スラウェシ、イリアン・ジャヤ等大小1万3千あまりの島々から成る世界最大の島嶼国家である。南北1,900キロメートル、東西5,100キロメートルに及び、その面積は1,905千平方キロメートルで日本の5倍ほどである。ジャワ島には全人口の6割が居住しており、首都ジャカルタが、政治・経済・文化の中心となっている。海をはさんで南はオーストラリア、北はフィリピンに、またカリマンタン島でマレーシア、イリアン・ジャヤでパプア・ニューギニアに接している。石油や天然ガス、木材、水産物など各種天然資源に恵まれた国であり、350年にわたるオランダの植民地支配、日本による軍政を経て1945年に共和国として独立を遂げた。

インドネシアは環太平洋活火山帯に属し、全国に128の火山があり、そのうち78が活火山である。1883年におこったクラカタウ火山の爆発は、19世紀最大といわれる程のものであった。

インドネシアの地勢は二つの山系によって特徴づけられている。一方は北からフィリピンを経て東インドネシアに、他方はビルマ山系の延長として、スマトラ西岸からジャワ、バリを経て群島の北東部を通り、スラウェシに至るものである。ジャワ島はメラピ火山をはじめ火山が多く、そのうち21が活火山である。

(参考文献)

『国際情報大辞典』 1992 学習研究社

『東南アジアを知る事典』 1986 平凡社

『Indonesia Travel Guide』 1991 インドネシア政府観光局

(2) 気候

赤道多雨地帯に位置し、全体に高温・多湿の熱帯性気候である。

年間を通じて季節の変化はなく、半年ごとに雨期と乾期を繰り返す。乾季(6～9月)にはオーストラリア大陸からの季節風が吹き、雨季(12～3月)にはアジア大陸、太平洋からの季節風が雨をもたらす。なお、マルク地方は他の地域と異なり、6～9月が雨季、12～3月が乾季である。雨季と乾季の移行は緩やかに行われる。

降雨量は極めて多く、年間雨量が2,000ミリを越えるところもみられるが、東部地域では雨量が少ない。平均湿度は高く、年間を通じて75～85%である。日長変化が少ないこともあり、年間の気温の変化は小さい。また、年間平均気温は海岸地帯において27度、内陸部においては25度、山間地帯において22度程度である。

(参考文献)

『国際情報大辞典』 1992 学習研究社

『インドネシア農業の概要』 1991 国際農林業協力協会

『Indonesia Travel Guide』 1991 インドネシア政府観光局

(3) 人口

インドネシアの人口は、1991年現在 181 百万人である（世銀資料、1993）。

総国土面積のわずか約 7% にすぎないジャワ島に全人口の 60.0% が居住しており、人口の過半数は農業従事者という農業国である（AICAF 資料 1993）。

また、主要都市の人口は、首都ジャカルタが約 886 万人、東部ジャワ州都でインドネシア第 2 の都市でもあるスラバヤが約 220 万人、西部ジャワ州都のバンドンが約 156 万人である（共同通信社資料、1993）。

(参考文献)

『世界年鑑』 1993 共同通信社

World Development Report 1993 The World Bank

『国際農林業協力』 Vol.1 15 No.4 1993 国際農林業協力協会

(4) 略史

表 2：インドネシア略年表

年	出来事
7 世紀	仏教王国シュリーヴィジャヤ王国が誕生。
8 世紀	ジャワ島内陸部にヒンズー教国のマタラム王朝が誕生。
14 世紀	ヒンズー教国マジャパヒト王朝がインドネシア全域を支配。
16 世紀	イスラム教国が発展。
1512 年	ポルトガル人がモルッカに到達し、香料貿易を独占。
1602 年	オランダ東インド会社をジャカルタに設立。
1800 年	オランダ政府によるインドネシア直接統治。
1825 年	オランダからの独立運動、ジャワ戦争に発展。
1927 年	スカルノ、インドネシア国民党を創設。
1942 年	日本軍の軍政下に入る。
1945 年	日本の敗戦により、スカルノがインドネシア独立を宣言。
1947 年	オランダ・インドネシア戦争勃発。
1949 年	オランダ、インドネシア連邦の独立を承認。
1950 年	暫定憲法発布。連邦制を廃止し、中央集権的なインドネシア共和国が成立。
1959 年	スカルノ、軍部内左派の支持を得て独裁政治を開始。
1965 年	マレーシアの独立に反対し国連脱退。共産勢力によるクーデター未遂事件でスカルノ政権崩壊へ（9.30 事件）
1966 年	スカルノがスハルトに権限を委譲。
1968 年	スハルト、大統領に就任。反共政治路線をとる。
1976 年	東チモールを併合。
1990 年	中国との国交正常化。
1991 年	11 月、東ティモール、デイリ市にて騒乱事件発生。
1992 年	6 月、総選挙。与党ゴルカルが勝利。
1993 年	3 月、トリ・ストリスノ前国軍司令官が副大統領に就任。 スハルト大統領 6 選。

出所 「インドネシア情勢及び日・「イ」関係」 1993 外務省

『国際情報大辞典』 1992 学習研究社

『東南アジア要覧』 1992 東南アジア調査会

『もっと知りたいインドネシア』 1982 弘文堂

『Indonesia Travel Guide』 1991 インドネシア政府観光局

(5) 民族等

大半がマレイ系からなる民族により構成されている多民族国家でジャワ族、スンダ族など27種族に大別されるが、小民族を含めればその数は数百に達する（東南アジア調査会資料、1992）。

なお、地域別の各民族の人口（いずれも概数）は以下のとおり。

ジャワ島及びその周辺	：ジャワ族 3,700万人、スンダ族 1,200万人
スマトラ島及びその周辺	：バタック族 150万人、アチェ族 100万人、 ランブン族 100万人、ミナンカバウ族 300万人
カリマンタン島	：ダヤク族 100万人
スラウェシ島及びマルク諸島	：マカッサル族・ブギス族 350万人、 トラジャ族 100万人、ミナハサ族 100万人
小スンダ列島	：バリ族 200万人、ササック族 70万人

このほか、主としてオランダ統治時代に流入してきた華僑が各地に存在し、大きな経済力を持っている。

(参考文献)

- 『東南アジア要覧』 1992 東南アジア調査会
- 『東南アジアを知る事典』 1986 平凡社
- 『インドネシア農業の概要』 1991 国際農林業協力協会

(6) 言語

公用語はインドネシア語（Bahasa Indonesia）である。ほかにジャワ、スンダ、ミナンカバウ、バリなど約 250 もの独立した言語があるが、独立に際し、マレイ半島から周辺諸島地域にかけて商業用共通語として広く使用されていた「インドネシア語」を標準語として採用し、普及させた結果、現在では全国的に通用しており、ほかのアジア・アフリカ諸国のような言語抗争は見られない。

(参考文献)

- 『東南アジア要覧』 1992 東南アジア調査会
- 『もっと知りたいインドネシア』 1982 弘文堂
- 『東南アジアを知る事典』 1986 平凡社

(7) 宗教

憲法で信仰の自由は認められている。

1985年現在の宗教別人口比率はイスラム教が86.9%と圧倒的多数を占めており、信者数において世界一であるが、一般に中近東と比べると強制力は弱く、戒律も緩やかである。

その他の宗教は、スマトラのトバ・バタック族を中心にプロテスタント信者が、東部インドネシアを中心にカトリック信者がおり、合わせて9.6%となっている。またバリ及び周辺の島々を中心にヒンズー教が1.9%、華僑を中心として仏教が0.6%の信者をそれぞれ持っている（Europa社資料、1993）。

(参考文献)

- 『もっと知りたいインドネシア』 1982 弘文堂
『東南アジアを知る事典』 1986 平凡社
『インドネシア農業の概要』 1991 国際農林業協力協会
The Europa World Year Book 1993 Europa Publications Limited

(8) 文化

インドネシアの文化は、古くからあるアニミズムと後から入ってきた諸宗教及びポルトガル・オランダからの西欧思想とが混合され、融合されてできた独自のものである。

習慣や伝統の基本理念としては、「和合の精神 (ムシャワラ=Musyawaharah)」と「相互扶助 (ゴトン・ロヨン=Gotong Royong)」とがあり、インドネシア人の生活基盤となっている。これらは自治農村の生活様式から発生したもので、現在でも全国的に共同生活の場で生きている。

インドネシアの法制度は、古代オランダの刑法典を基礎としているが、社会生活においては「慣習法 (アダット=Adat)」が絶対的な法律として守られている。また、宗教も強い影響力を持ち、伝統的な風習などの日常生活から人生の通過儀礼や村単位・国単位の行事にいたるまで、インドネシア人の生活の隅々に浸透している。

インドネシアにおける芸術様式は、各時代の宮廷内で宗教儀式に欠かせない重要な要素のひとつとして発達・反映してきたために、非常に多彩で、しかも完成度の高い優れたものとなっている。

ジャワ舞踊やバリ舞踊は、その題材の多くをヒンズー叙事詩のラーマー・ヤナやマハーバー・ラタから採っている。これらの舞踊や「ワヤン・クリット (Wayang Kulit)」と呼ばれる影絵芝居は「ガムラン (Gamelan)」というオーケストラの伴奏で上演される。ガムラン以外にも、北スラウェシの竹製木琴コリンタンや西ジャワの竹製打楽器アングルンなどインドネシア各地には、その土地特有の楽器が数多く存在する。

(参考文献)

- 『国際情報大辞典』 1992 学習研究社
『東南アジアを知る事典』 1986 平凡社
『Indonesia Travel Guide』 1991 インドネシア政府観光局

(9) マス・メディア

1) 新聞

新聞は政府系のものからゴシップ紙まで多様である。

日刊紙としては、最有力紙コンパス (Kompas、カトリック系、約52万部) のほか、中立系大衆紙ポス・コタ (Pos Kota、50万部)、スアラ・プンバルアン (Suara Pembaruan、プロテスタント系、26万部) や与党ゴルカル系のスアラ・カルヤ (Suara Karya)、民族主義的なメルデカ (Merdeka) など61紙がある。また、インドネシア・オブザーバー、インドネシア・タイムズ、ジャカルタ・ポストなどの英字紙も発行されている (東南アジ

ア調査会資料、1992)。

1990年夏、政府は国内外の報道関係機関への検閲をゆるめる意向を明らかにしたが、実際の政策には大きな変化は見られなかった。ただし、92年後半、5年間にわたった政府による発行停止命令が違法である旨の訴えが「プリアリタス」紙オーナーを中心とするグループにより起こされた。なお、80年代後半から大都市をベースとするメジャーな新聞社が各地方新聞を系列下に収めていく現象が顕著になってくる。これらのグループはサービス産業などの多角経営にも乗り出しコングロマリットを形成するようになっていく。

(参考文献)

The Europa World Year Book 1993 Europa Publications Limited

『東南アジア要覧』 1992 東南アジア調査会

『東南アジアを知る事典』 1986 平凡社

『アジア経済』 1994.1 アジア経済研究所

2) 放送

ラジオ放送局としては、国営のR R Iがあり、全土の67%、人口の85%をカバーしているが、この他に多数の民営放送局があり、大衆音楽などを中心に活況を呈している。

テレビ局は、最近まで国営1局(T V R I)のみで、国土の35%、人口の65%をカバーしていた。このテレビ局では、国威高揚の観点から要人列席のもとに行われる開発プロジェクトの起工式や完工式の模様を逐一放送している点が特徴的である。1988年11月にジャカルタ及びその周辺をカバーする民営局(R C T I)が開設され、90年8月にはスバラヤ及びその周辺をカバーする民営局(J C T V)が開局した。また、91年1月23日よりインドネシア教育テレビ(T P I)が放映を開始、全土のうち35%、人口65%をカバーしている。また現在国軍が、芸能活動に加え、軍の政治・治安活動などを紹介するテレビ局を開設する計画を進めている(Europa社資料、1993)。

(参考文献)

The Europa World Year Book 1993 Europa Publications limited

『東南アジア要覧』 1992 東南アジア調査会

『東南アジアを知る事典』 1986 平凡社

表3：経済指標 [インドネシア]

1) 主要経済指標の 推移	年	(1989)	(1990)	(1991)
GDP (10億ルピア) (注1)		167,185	196,919	227,163
一人当たりGNP (注2) (ドル)		500	570	610
GDP実質成長率 (注1) (%)		13.1	7.1	6.6
消費者物価上昇率 (注1) (%)		6.4	7.5	9.2
失業率 (%) (注3)		N.A.	N.A.	N.A.
貿易 (百万ドル) (1992年)		貿易収支： 6,021 (注1) 輸出額： 32,502 (注1) 主要相手国：日本 (31.7%) (注4) 輸入額： 26,481 (注1) 主要相手国：日本 (22.0%) (注4)		
経常収支 (百万ドル) (注1)		-1,108	-2,988	-4,080
対外債務残高 (注2) (百万ドル)		53,111	67,908	73,629
債務返済比率 (%) (注2)		35.2	30.9	32.7
外貨準備高 (注2) (百万ドル)		6,444	8,657	10,358
2) 通貨 (1993年10月末) (注5)	通貨単位：ルピア 1ドル = 2,105 ルピア			
3) 会計年度	4月1日～3月31日			

出所 (注1) International Financial Statistics Yearbook 1993 IMF

(注2) World Development Report 1991-1993 The World Bank

(注3) Year Book of Labour Statistics 1992 ILO

(注4) Country Report : Indonesia No.1 1993 EIU

(注5) 東京銀行調べ

II 生活事情

1. 食生活

1-1 食料

(1) 一般事情

パサール、スーパー、個人商店など多い。パサールには、食料品のほかに、日用雑貨、衣類まで売られている。量的には豊富であるが、質的には疑問である。衛生上も好ましくない。冷蔵庫はなし、ショーケースもなく、無造作に並べてあるだけなので、選ぶ時に十分注意する必要がある。計り売りなので、食料品の概量についての知識が必要である。また、スーパーといえども、ショーケースはあるものの、食品管理が不十分なので、製造年月日などよく注意して買うこと。生の牛乳、魚類の入手がむずかしい(鮮度が悪い)のでカルシウム、ビタミンB類の不足を招きやすい。

このところ、物価の上昇も著しい。値引きは、パサールでは可能である。

ネズミ、ゴキブリ、アリなどが多いので、食料品の保管、保存に留意すること。

(2) 主な食料の出回り状況

日常、よく使う食料品について次にまとめてみた。ジャカルタでは、ほとんどのものが手に入るので、ジャカルタ出張の時に買い求めている(そごう、コスモなどで購入できる)。

・穀類

パサールなどで入手可能な品：米、もち米、食パン、マカロニ、中力粉、米粉、
スパゲティ

スーパー・ヘロー(注1)で入手可能な品：パン粉、てんぷら粉、乾めん、
インスタントラーメン

入手困難な品(注2)：玄米、切りもち

・いも類

パサールなどで入手可能な品：じゃがいも、さつまいも、春雨、片くり粉

スーパー・ヘローで入手可能な品：しらたき、こんにゃく

入手困難な品：大和いも

・油脂

パサールなどで入手可能な品：バター、ヤシ油、オリーブ油

スーパー・ヘローで入手可能な品：日清てんぷら油、ごま油

・豆類

パサールなどで入手可能な品：赤豆(うずら豆の小さいもの)、豆腐(日本のとは味が若干違う)、豆は種類が豊富

スーパー・ヘローで入手可能な品：みそ

入手困難な品：油揚(手作り可能)

・魚介類

パサールなどで入手可能な品：エビ、イカ、アジのよなもの、カツオのようなもの、タイ、タチウオ、カニ、しらす

- スーパー・ヘローで入手可能な品：シーチキン、削りかつお節
 入手困難な品：煮干し、小魚、つくだ煮、練製品、削りカツオ節
- ・肉 類

パサールなどで入手可能な品：豚、鶏、牛、羊
 スーパー・ヘローで入手可能な品：ハム、ベーコン (古くてかびがはえている場合が多い)、サラミ、ソーセージ
 - ・乳 製 品

パサールなどで入手可能な品：粉乳、練乳
 スーパー・ヘローで入手可能な品：ヨーグルト、ホイップクリーム、生クリーム (ニュー・ジランド製)、チーズ
 - ・野 菜

パサールなどで入手可能な品：だいたいある (キャベツ、にんじん、きゅうりほか)

スーパー・ヘローで入手可能な品：タクアン
 入手困難な品：ゴボウ、しそ、らっきょう、きゅうりの古漬け
 - ・干 物

パサールなどで入手可能な品：干しいたけ、するめ (パサール・パトックのみ)、きくらげ

スーパー・ヘローで入手可能な品：干しいたけ、乾のり、寒天
 入手困難な品：かんぴょう、ぜんまい、わらび、とろろ、ひじき
 - ・菓 子 (材 料)

スーパー・ヘローで入手可能な品：ゼラチン、コーンスターチ、エッセンス、干ブドウ、白玉粉、せんべい

入手困難な品：こしあん
 - ・嗜 好 品

スーパー・ヘローで入手可能な品：アルコール類、紅茶、麦茶、コーヒー、ウーロン茶、日本酒 (料理用)、緑茶

入手困難な品：梅酒 (ジャカルタはある)、玄米茶、抹茶
 - ・調 味 料

パサールなどで入手可能な品：塩 (荒塩)、ケチャップ、こしょう、グラニュー糖、香辛料

スーパー・ヘローで入手可能な品：SB からし粉、酢、わさび粉、しょうゆ、みりん、だし、ブルドックソース、ラー油、料理酒、はちみつ、カレールー、マヨネーズ

入手困難な品：食卓塩、上白糖

(注1) スーパー・ヘローとは、日本食品の置いてあるスーパー。品切れの時も多い。

(注2) 入手困難な品も、ジャカルタで入手可能な品が多い。

参考までに、持参例をあげると、次のとおりである。

砂糖 (ペットシュガーやかわいい角砂糖、三温糖など)、レトルト食品 (油揚げ、お赤飯の素、カレー、まつたけご飯の素など)、フリーズドライ食品 (明太子、サケ、ゴボウなど缶入りのものを)、小魚、煮干し、するめ、漬物 (長期保存のできるさんしょうの実、しその実の塩漬け、らっきょう、梅干しなど)、食紅、食卓塩、サラダオイル、干物 (かんぴょうなど)

(3) 食料の入手

日本食料品は、Gelael (Jl. Solo)、Hero (Jl. Solo) のスーパーでわずかに入手可能である。

その他のものは、パサール、スーパーで入手する。パサールはたくさんあるが、よく利用するところは、次のとおりである。

- ・パサールパトック (Pasar Patuk) ー 中国人が多い。(肉、特に豚肉、エビなどはここが良質) 5時半頃出かければ、比較的新鮮な魚が入手できる。

- ・パサールドウマンガ (Pasar Demangan)

- ・パサールクランガン (Pasar Kranggan)

また、Jl. Gandekan には、中国人経営の店が並び、比較的新鮮な魚も手に入る。車で1時間ほどのバロン海岸まで買い出しに行けば、水揚げしたての魚が手に入る。

1-2 食器・調理器具など

(1) 食器・調理器具などの入手

電気製品は、ほとんどのものが調達可能である (メーカーは、日立、ナショナル、サンヨーなどがあるが、偽物があるので購入時は注意が必要である)。冷蔵庫 (備え付けが多い。最低大型2台はほしい)、電気釜、ジャー付き炊飯器、トースター、オーブングリル、ジューサーミキサー、ポット、コーヒーメーカー、ホットプレート、電気コンロ、電子レンジなどである。ただし、電圧が日本と違うので、帰国時に持ち帰るのは困難である。

食器は、コップ、ガラス鉢、コーヒーカップ、皿などはある。たまに和食器セット、小ばちなども売っている。

調理器具は、ほとんど手に入る。もち焼き、土鍋、つまようじまで日本製品がスーパーにおかれている。値段は日本の2~3倍する。比較的質もよく豊富な品揃えの店は、Progo (Jl. Sriwedani) である。

(2) 日本から持参した方がよい食器・調理器具など

電気製品は上記を参考にされたい。電圧は220ボルトである。ただし、ホテルは127ボルトである。変圧器は当地で入手可能である。調理器具については、次のとおりである。ただし、使用人に使わせるものであれば高価なものは避けた方がよい。

- 圧力鍋、無水鍋 (使い慣れていれば、料理のレパートリーが増える)

- 包丁 (切れが悪い。出刃、牛刃はない)

- 飯台・押しずしの型・巻きす

- 菜ばし・おろし金

- 缶切り (日本のものが使いやすい)

野菜の型ぬき

流し缶・アルミの弁当箱（豆腐、こんにゃくを作る時、重宝する）

さらし布

カリタ

1-3 外 食

(1) 飲食店

日本人のよく利用する飲食店は、次のとおりである。

* 西洋料理

Restaurant Borobudur（舞踊付き）

Ambarrukmo Palace Hotel 7F, Jl. Solo TEL 588488

* 日本料理

Tenpura Hana Jl. Monumen Yogya Kembali TEL 588456 (Ext.413)

Yashinoki Karaoke Jl. Solo

* インドネシア料理

Pesta Perak Jl. Tentara Rakyat Matar 8 TEL 563224

* 中華料理

Valentino Jl. Magelang 57 TEL 588824

Gita Buana Jl. Adisucipto 169 TEL 561164

Rama Restaurant Jl. P. Mangkubumi 101 TEL 513480

Sintawang Jl. Magelang 9 TEL 512901

Kaping Jl. Suryatmajan 3 TEL 512397

* 韓国料理

Ginsen House Jl. Urip Sumoharjo TEL 561955/2698

* 鶏料理

Nyonya Suharti Jl. Solo 208 TEL 515522

ジョグジャカルタではチップは必要ない。

パーティなど多人数の場合、予約した方がよい。

(2) その他の飲食店

ジョグジャカルタの特別料理グデ（Gudeg）は、Bucitoto（Jl. Adisucipto）で食べられる。ただし、日本人好みかどうかは疑問である。

ジャカルタと比べて、日本的なスナック、喫茶店などはない。ホテルのバー、ティールームを利用するのみである。

2. 衣 料

2-1 衣 料

(1) 一般事情

1年が乾季と雨季に大別される。年間の平均気温が25～30℃で、1年を通してほとんど夏服で過ごせる。乾季は、降雨量が少なく晴天が続き、湿気は少ないが、1日数回着替えが必要である。雨季に入ると、朝から雨が降り、気温も下がるので、長袖のもの、カーディガンなどが欲しくなる。またこの時季は、朝晩冷え込み、1日の温度差があるので、寝冷えをしてかぜをひきやすいので注意が必要である。タオルケット、ときには毛布が欲しくなることもある。

衣服は豊富にあり、ほとんどのものが手に入る。(セーター、ジャンパーまで)特に若者向けは日本と同様、デザインも色彩もカラフルで現代的なものが多い。ただし縫製が悪くほつれやすく、破れが早い。ブランド名のみ日本で、縫製はインドネシアというものも多い。価格は、日本製品はすべてにおいて高いが、その他のものは、ほぼ同じか、かえって安い。

洗濯回数の多いこと、洗濯があらいこと、太陽光線が強いことから、衣服の色あせ、傷みが激しいので、素材、型の選び方に留意する。

(2) 日本から持参した方がよい衣料

日本的な特殊のものを除けばすべて手に入る。しかし、着任当初は何かと忙しくまごつくので、当座(アナカンが到着するまでの1ヵ月間)身につけるものは持参した方がよい。

下着などブランドもの(インドネシア縫製のワコール、トリンプなど)も多いが、縫製のしっかりした日本製を持参した方が、安く、長く使用できる。しかし、レース、フリルなどの少ないシンプルなものすすめる。ただし、洗濯回数が多くなるので、当地のものを多量に使用するのもよい方法である。

幼児、男児の下着は、寒い時もあり、やはり数枚必要である。幼児、小学生ぐらいの子供の下着はゴムがきついで、日本から数枚持参した方がよい。また、男児の下着、パンツを探すのに苦労する。

靴下類は日本製のものがあるが、男性用の綿のストッキングが少ない。子供用は足首のところが非常にきつい。女性用のストッキングはガルデナに少しあるが、使用することは少ない。また、ワンピース、スカートなど普通のデザインのものがなく、サイズも揃っていない。

靴類は子供物、運動靴、サンダルともある。しかし、長靴は、大人用、子供用ともみかけない。めったに使用することはないが、雨季にパサールなどに出かける時に必要なこともある。女性用サンダルは、丈夫さ、履きやすさから考えれば、日本のものがいちばんよい。当座履くサンダルは、持参するとよい。また日本のようなスリッパはない(バティックでできたサンダルはあるが、すぐに破ける。スリッパに代用できるペタンコのサンダルが多くある)。

当地には、ねまきに着替えて眠る習慣がないせいか、パジャマは売っていないので持参した方がよい。

乳幼児のものでは、おむつはない。パンツのみで育てているようである。日本式

に育てたければ、おむつ、おむつカバー、トレーニングパンツなどを持参した方がよい。なお、紙おむつは2種類ほどある。おくるみ、毛糸の靴下、手袋、帽子など、すべて手に入る。

寝具類は、シーツ、タオルケット、毛布、バスタオルなどは売っている。しかし、タオルケットは、当地の人はあまり使用しないらしく、品数も少なく、売り切れるとなかなか手に入らないこともある。また価格も高いので、できれば持参するとよい。

(3) 任国で調達した方がよい衣料

布地は豊富にあり、仕立代も非常に安いので、当地で作るのも一策である。子供物などは成長も早いので、わざわざ日本から持参する必要はない。

(4) その他の留意点

特になし。

2-2 礼 装

(1) パーティ

パーティの数は少なく、盛装を必要とするパーティはない。男性は長袖のバティックがあれば、どこでも失礼にならない。女性の場合でも、Tシャツ、ジーパンでは困るが、簡単なワンピース程度で失礼にならない。バティックのワンピースが最良である。男性、女性ともに長袖が正装である。

和服は、着る機会がないので必要ない。ゆかたなどがあれば、家でのパーティなどに着ると、社交用に効果大である。

(2) 式典

該当情報なし。

(3) その他の冠婚葬祭

該当情報なし。

(4) その他の留意点

該当情報なし。

2-3 洗濯、仕立て、修繕、保管

(1) 洗濯

クリーニング店はいたるところにあるが、値段、方法、システムは不明である。安心なのはやはり、ホテルのドライクリーニングに出す方法である。補償などについては不明である。シルク物については要注意である。

アイロンは、日本のメーカーのものが安く手に入る。

日本人の場合、洗濯機を利用する家庭が多い。入居の時、電気屋で調べて型番を家主に買ってもらうとよい。

(2) 仕立て、修繕

仕立屋は多くあり、値段も比較的安い。しかし、腕はわからない。上手な店はそれなりに高いようであるので、目的に応じて店を選ぶとよい。情報は先に赴任している人から得たり、何軒か試すとよい。仕立ての参考となるスタイルブックは、パリや日本の雑誌があるが、数も少なく、流行も若干遅れている。好みの洋服が載っているスタイルブックがあったら、日本から持ってくるとよい。

修繕は簡単なものなら、その日のうちか、次の日にできあがる。

ズボンなどの裾あげなどは専門の店がある。デパートなどではやっていないところが多い。

(3) 保 管

絹製品は汗をかくので使用しない方が無難である。保管は洋服ダンスにするが、乾燥した晴天の日にタンスを開放して風を通したり、衣類の陰干しをするとよい。クーラーを除湿にするのも一策である。

防虫剤は、パラゾールなどの日本製品がスーパーなどに売られている。白いものが茶色に変色したこともあるので、ときどき総点検をする必要がある。除湿剤は日本から持参した方がよい。また、臭いのつかない防虫剤が必要であれば、日本から持参した方がよい。

3. 住 宅

3-1 住宅事情

(1) 一般事情

ジョグジャカルタは、ボロブドール、プランバナンなどの遺跡があり、内外からの観光客が多い。また、学問の街ともいわれ、学生の多いところである。ホテルについては、量・質ともに豊富であり、近年の観光客の伸びにつれ建築ラッシュの観がある。

住宅については、一戸建てからゲストハウスまで多種多様であり、ぜいたくをいわなければ、量は確保されている。

(2) ホテル事情

日本人専門家がよく利用するホテルは、下記のとおりである。代理店（トゥーナス Ambarrukmo Palace Hotel 内 TEL 566488）を通して申し込むと、JICA割引が受けられる。ただし、宿泊費は代理店に支払うこと。

* Ambarrukmo Palace Hotel

電話 566488 住所 Jl. Solo
料金：シングル 55 ドル、ツイン 65 ドル（朝食含む）

* Hotel Garuda

電話 586457 住所 Jl. Malioboro 72
料金：シングル 55 ドル、ツイン 55 ドル（朝食含まず）

* Hotel Mutiara

電話 514531、515173 住所 Jl. Malioboro 18
料金：シングル 40 ドル、ツイン 45 ドル（朝食含まず）

* Hotel Sriwedare

電話 588288 住所 Jl. Adisucipto
料金：シングル 30 ドル、ツイン 35 ドル（朝食含む）

* Sahid Garden Hotel

電話 587078、53697 住所 Jl. Babarsari
料金：シングル 50 ドル、ツイン 55 ドル（朝食含む）

* Hotel Aquila Prambanan

電話 565505 住所 Jl. Adisucipto
料金：シングル 55 ドル、ツイン 60 ドル（朝食含む）

* Hotel Melia Purosani

電話 589521 住所 Jl. Suryotomo
料金：シングル 55 ドル、ツイン 60 ドル（朝食含む）

長期滞在、赴任当初の利用は、上記ホテルすべて可能である。赴任当初の滞在については、勤務地との距離、家族構成、限度額、食事場所などとの兼ね合いもあるので、当地の専門家に相談するとよい。

(3) 住宅の探し方

通例、前任者などがいくつかの候補をあげてくれ、そのなかから選定している。候補をあげるにあたっては、a) ブローカーの紹介、b) 前任者の家を引き継ぐ、

c) ほかの専門家の大家の紹介、d) カウンターパートの紹介、e) 旅行業者などの紹介などがある。紹介を得て借りることが決まった場合、紹介者は大家から礼金をもらうので、謝礼の必要はない。

(4) 住宅の選定上の留意点

ジャカルタと同じに考えてよい。問題点をあげてみると、次のとおりである。

治安については、ジャカルタと比べてよいが、ジャカルタと同程度にすれば十二分である。

住居の設備について、まず電話があることが第一条件である。大家の約束だけではいつ設置されるかあてにならないので、電話のある家に入居すること。

水はジャカルタと異なり井戸水を利用しているので、水の出具合、井戸の場所などもいちおうみておいた方がよい。雨漏りは、住居の新旧にかかわらずあるので、跡などをよく確かめる必要がある。

設備、備品については、必要なもの（冷蔵庫、エアコン、網戸、バスタブなど）は契約前にすべて要求し、その達成をみてから家賃の支払いをすること。支払い後要求しても、それがたとえ以前から要求していたことであっても、一切無理であると考えた方がよい。

環境については、下町は避けた方がよい。モスクがいたるところにあり早朝から拡声機を通してお祈りが聞こえてくるので、モスクの近くも避けた方が賢明である。

また、雨季に入ると各所で洪水が起こるので、排水のよし悪しも考慮されたい。また通学の便も考えてほしい。そのほか、規模、老朽度、使用人の部屋などについてはジャカルタと同じと考えてよい。

(5) 住宅の契約

ジャカルタと同じである。あとでトラブルが発生した場合、その判断は契約書の記載事項にゆだねられるので、細かい点についても明記しておく必要がある。

例えば、支払い方法では、ドルで支払う場合、銀行手数料が1%かかるが、それをどちらが負担するかとか、前払い金をどの程度支払うか（通例、家賃の2～3ヵ月分）、家具設備費はどちらが持つか、あとの補修の条件、家屋・家具保険の加入などである。

(6) 電気、ガス、水道などの手続と管理

公共料金（電気、電話）は、居住者支払いであり、毎月10～20日までの間に直接決められた場所へ支払う。通知などはこないなので、前月の領収証を持参する。最近、銀行振替制度が開始されたが、利用している日本人はいない。

ガスはプロパンガスであり、店（電話 63967）へ電話し、届けてもらうか、トラックで流して売っているのを買う（ボンベ交換）。

(7) その他

家屋・家具の保険加入については、契約時に大家に加入してもらうとよいが、治安状態が比較的よいので、現在までのところ火災、盗難についての被害はない。

ゴミの処理は、各家庭の近くにゴミ箱がおかれ、定期的に収集される。ゴミ収集は有料で、地域によって料金が異なり、月3,000～1万5,000ルピアぐらいである。また自宅の庭で焼却処理する家庭もある。

4. 医 療

4-1 赴任前の準備

(1) 予防接種

当地でも、大きな病院でスENTICコティバーという3種混合(コレラ、破傷風、チフス)の予防接種を受けることができる。しかし、乳幼児の予防接種は日本で済ませてきた方がよい。BCG、ポリオ、3種混合の第1期目は、赴任前にスケジュールを立て、すませたい。また、中部ジャワは狂犬病の多いところでもある。狂犬病の予防注射については、医師に相談してほしい。

(2) その他の準備

ジャカルタと同じであるが、特に歯の治療は完全に受けておくこと。こちらでは、すぐに抜かれるおそれがある。持病のある場合、かかりつけの医師からその薬の原薬名を聞いておくとよい。

4-2 医療事情

(1) 医療機関

市の中心部に3つの大きな総合病院がある。

日本人医師はいないが、ベテスタ病院に日本で訓練を受けたレントゲン技師がいる。

*民間総合病院

R.S. Bethesda

住所 Jl. Jend. Sudirman 70 TEL 588876 ~9

1日当たりの入院費：100,000ルピア

R.S. Pantirapih

住所 Jl. Cikditiro 30 TEL 562233 563333

1日当たりの入院費：70,000ルピア

*ガジャマダ大学付属総合病院

R.S. Sardjito Dr.

住所 Jl. Bhineka Tunggal Ika Sekip Bl K/l TEL 587333

1日当たりの入院費：50,000ルピア

(注) R.S. : Rumah Sakit = 病院の意。

上記3つの病院とも、診療科目は全科、入院は可能、予約は必要ない。

また、上記3つの病院においては注射針などはすでに使い捨てを使用しており、したがって日本から持参の必要はない。

入院費は個室(VIPルーム)の平均である。また、人間ドックも受け付けている。病院は7時頃から始まり、正午に終わる。

上記の病院に勤務する医師が、夕方から自宅で開業している医院がある。

ほかにLaboratorium Klinik Prodia (Jl. Sindunegaran 17A TEL 586885)と呼ばれる医療検査所もあり、2時間ぐらいで検査結果がわかる。

(2) 緊急時の対応と措置

ベテスタ病院が救急指定で、昼夜を問わず救急車を呼ぶこともできるし、医師も待機している。ただちに、一応の措置が受けられる。

4-3 医薬品など

(1) 携行することが望ましい医薬品

街にはたくさんの薬局 (Apotik) があり、スーパーなどでも薬が売られている。なかには日本でもなじみのものもある。しかし、言葉の問題もあるので、日本からある程度のものは持参した方がよい。特に子供がよくかかる病気の薬は、かかりつけの医師からもらっておくとよい。補充がきかないので十分な量を持参すること。

乾季になると空気が乾燥し、のどをよく痛めるので、イソジンなどのうがい薬は多めに持参するとよい。ジャカルタのコスモで、日本の薬が少しだが売られている。

医療品ではないが、ゴキブリホイホイ、アリ駆除剤なども持参するとよい。

(2) 任国で調達できる医薬品

サロンパスから消毒薬、ドイツの薬から漢方薬まで、薬は豊富にあり、たやすく入手できる。ほとんどジャカルタと同じである。しかし、こちらの症状を的確に薬剤師に伝えることは困難であるので、医師の処方せんがある場合以外は、買うことはあまりない。

(3) 任国で調達できる衛生用品

日常使用する衛生用品は、ほとんどある。生理用品 (ナプキン) は、花王のロリエの普通サイズがある。ただし当地生産品である。

(4) 医薬品を使用する場合の留意点

医薬分業である。薬の値段は高い。当地でも過剰投薬の傾向がある。インドネシアの薬は強いといわれており、同時に3種類使用して気分が悪くなったケースがある。やはり使い慣れた日本の薬を用い、それでも思わしくない時は、医師の診察を受けることをすすめる。

4-4 妊娠、出産、育児

(1) 妊娠した場合の対応

経産婦については、当地でも十分妊娠・出産に耐えられる。

初産の人に関しては適切な助言を受けることができないので、精神的な負担は大である。外国人はジャカルタまで行って出産する人が多い。

(2) 出産後の対応

該当情報なし。

(3) 育児

育児用品は、おむつを除いてすべて入手可能である。ジョンソンが入っているので、日本から持ち込む必要はない。粉ミルクは、森永などが売られているが、製造年月日などによく注意すること。乳児用粉ミルクは豊富である。

育児の問題点といっても、各家庭の育児方針によって異なるが、ただひとつ、床が石なので、けがには十二分の注意が必要である。

4-5 手術

(1) 任国で可能な手術

ベテスダ病院でほとんどの手術が可能である。ほかの総合病院でも可能である。歯科の細かい技工の程度は不明であるが、抜歯だけなら前例もあり不安は少ない。

(2) 手術設備の状況

ベテスダ病院ではコンピューターを導入し、かなり高度の手術も可能である。CTスキャンなどもあるようだが、それをみてそれからどうするかというところで日数がかかって、日本までチャーター便を出した人もいる。

ここでは重病にならないように、大けがをしないようにすることが大切である。

(3) その他の留意点

入院に際しては、暑い国なので、ねまき、その他の着替えを数多く用意する必要がある。

4-6 任国でよくかかる傷病

(1) 一般の疾病

チフス系の腹痛、デング熱、皮膚病では水虫、アトピー性の湿疹にかかりやすい。

(2) 風土病・伝染病

デング熱のほかにコレラの一種のムンタベールがある。また、狂犬病の多いところでもある。

(3) 有害動物、病害虫

蚊、ハエ、ネズミ、ゴキブリ、アリはたいへん多い。サソリやムカデが湿気の多いところに出ることもある。アリ駆除剤は持参した方がよい。

4-7 保健衛生

(1) 飲料水

井戸水をポンプで汲み上げて使用している。ジャカルタと比べて水質はよいが、沸かして使うこと。

(2) 濾過器の入手法

使用していない家庭が多い。持参する場合、タンクの替えを多めに持ってくること。(4~5ヵ月ごとに交換が必要)

(3) その他の留意点

ジャカルタと同じである。30℃を越す暑さゆえ、肉体的疲労も大きい。十分な休養(午睡のすすめ)と栄養をとること。食料品の保管、保存に留意し、冷蔵庫を過信しすぎないようにする。

また、当地はアリが多いので、月1回程度アリの消毒をする家庭もある。アリメツなど少し多めに持ってくるるとよい。ゴキブリホイホイなども持参するとよい。

5. 教 育

5-1 教育事情

(1) 一般事情

現地校の教育水準はそう高くなく、インドネシア語を解すればまったくむずかしくない。ここでは、知識の伝達に重点がおかれ、教科書を暗記するような形で授業が進められている。

実験、観察はほとんどない。教育施設・設備は不十分で、教室には黒板のみで、視聴覚機材はむろんのこと、オルガンもない。図書室など特別教室も少ない。カリキュラムは日本とだいたい同じだが、パンチャシラ（建国の精神）、プラムカ（ボーイスカウト）、アガマ（宗教）といった時間がある。

ミッション系私立学校もあるが、ほとんどが公立である。外国人に対する特別扱いはなく、先生も生徒も温かく迎えてくれている。

(2) 日本人学校

日本人学校、補習校、文部省の巡回指導がないため、日本の勉強は海外子女教育振興財団の通信教育を受けることになる。

(3) 現地校、外国人学校

・ ジョグジャインターナショナルスクール (Y I S)

所在地 Jl. Kaliurang Km 5, Pogung Baru Blok A-18

電 話 86067

外国籍の子女のみ入学可能である。生徒数は幼稚部から8年生まで約30人いる。現在、教師はアメリカ人2人、アシスタントのインドネシア人が数人いる。韓国人、日本人など英語を母国語としない子のためにEnglish Second Class (ESL)があり、言葉の心配はそれほどない。弁当持参である。スクールバスはない。まだ新しい学校であり、父兄がボランティアでかり出されることが多い。

・ SD Neguri 2 IKIP Yogya (SD : Sekolah Dasar = 小学校)

師範学校 (IKIP) ジョグジャの付属小学校であり、ガジャマダ大学構内 (Sekip) にある。電話はない。インターナショナルスクールが開校する前、日本人児童が何人か通学していた。2部授業で、アガマ、パンチャシラの時間もある。新学期は7月である。

・ Central Jawa Intermission School

サラテガ (ジョグジャカルタから北へ車で2時間) にあり、宣教師の師弟のための学校である。外国籍の子女も入学可能である。ただし、英語の試験がある。Yogyaからも何人かの外国人がサラテガの寄宿舎に入っており、週末には帰ってくる。

電話がないため、Pox 42 Salatiga (住所 Jl. Osamaliki 46, Salatiga) に問い合わせる。小・中・高校とある。

(4) 幼稚園

インターナショナルスクール幼稚部と、IKIPの付属幼稚園 (TK Neguri IKIP Yogya TK : Taman Kana-Kana = 幼稚園) がある。

また、プレイグループがある。2～5歳の幼児を対象にしている。プレイグルー

ブはたくさんあるが、時間、園の方針などがまちまちなので、家からの通園方法、評判、施設などをじっくりみて決めるとよい。外国人のみのところ、外国人プラス当地の中国人のみのところなどがある。

5-2 入学手続および授業料

(1) 日本人学校

該当情報なし。

(2) 現地校、外国人学校

小学校 (SD Neguri 2 IKIP Yogya) の入学は、直接小学校に出向き、校長先生と面会のうえ許可を得る。これは、プロジェクトの長に頼んで書類を作成してもらうとよい。日本から英文の在学証明書を持参すること。

通学は普通、自家用車を使う。(当地の子もしかり) 車が使えない時はベチャ(人力車)またはバスで通学している。したがって、家を決めるにあたっては、学校への通学の便を考慮してほしい。

新学期は7月で、3学期制である。学期と学期の間に1週間の休みが、学年末には、ハリラヤ休暇に重なり1ヵ月余の休みがある。

始業時間は7:00、終了時間は12:00、ただし金曜日はお祈りのため10:30までである。15:00からプラムカの授業がある。(5、6年のみ)

1、2年生の授業は10:00には終了する。給食、弁当はない。授業はインドネシア語なので、入学前にインドネシア語を少し習った方がよいが、言葉についての心配はそれほどでもない。

授業料は月1,500ルピア、入学金が5万ルピア程度である。そのほか、制服代(2~3着)がかかる。

(3) 幼稚園

付属幼稚園の授業料は月5,000ルピア、おやつ飲み物代が3ヵ月で4,000ルピア、そのほかに制服代が3~4着分かかる。

授業時間は7:00~10:00までと短い。先生、園児とも特別扱いもなく温かく迎えてくれる。

プレイグループは私立なので、入学金、授業料が必要である。(入学金、授業料はまちまちで、入学金、授業料とも1万~3万ルピア) 保育時間が短い(7:00~10:00頃まで)。当地にきてから、家からの通園方法、評判、教育施設などじっくりみて決めるとよい。

5-3 教育関係施設

(1) 図書館

公立の図書館 (Perustakaan) がJl. Malioboroにあり、日本人でも保証人がいれば利用することができる。

(2) スポーツ施設

スポーツ施設といっても、学童が利用するような体育館などはない。サークルに入ってコートなどを利用するか、ホテルのプールを利用する程度であるが、インターナショナルスクールの父兄が中心となり、生徒に水泳や柔道などを週1回指導している。

5-4 家庭学習

(1) 家庭教師

インドネシア語を学ぶために家庭教師を頼む場合、日本人の留学生および研究者、日本への長期留学経験者や日本語を学んだことのある人(日本人相手のガイドなど)などに頼むことになる。費用はインドネシア人の場合、1時間2,500ルピアである。

ピアノ、エレクトーン、ギターなど楽器のレッスンについては、ヤマハの教室がある。ただし、楽譜は日本から持参した方がよい。

Sekolah Musik 「Crescend」

Jl. Dieng 4 Kotabaru TEL 88460

(2) 通信教育

海外子女教育振興財団のほかに、ドリル学習をジャカルタのOCSを通して送ってもらえる。しかし、現地校での宿題などもあり、東京から送られてくる課題(4教科)をこなすのに精一杯である。中学の場合、英語の通信教育のないことに注意する。

(3) 携行した方がよい家庭用学習教材

いちおう参考までにあげておくと(小学生の場合)、次のとおりである。学用品については、年々、日本製やそれに類似したものが増えており、特にこだわらなければこちらで揃えられる。また、ジャカルタではかなりの品物がある。ただし、使い慣れたものがあれば、持参する方がよい。

参考書—通信教育に手引書がある。理科、社会については事典ふうの参考書、図鑑などが欲しい。理科の観察、実験はなかなかできないので、科学読み物や学習マンガなどがあるとよい。また、インターナショナルスクールの場合、英和、和英の子供用辞典を用意するとよい。

辞書—インドネシア語の辞書のほかに、国語辞典、漢和辞典を親とは別に、学年相当のものが必要である。漢字の本(成立ち、熟語、散文例)などあればなおよい。

漢字練習用ノート、たて書き用ノート、原稿用紙—普通のノートは豊富にあるものの、罫の幅が狭いので低学年には不向きである。国語、作文、日記など、たて書きの習慣をなくさないためのノート類は必要である。

本—本はジャカルタでも入手可能だが高い。また子供のストレス解消のためマンガ本も欲しい。

学用品—日本製が出回っているが、値段は日本の3~4倍する。日常使っているものを持ってくるとよい。参考例として、クーピー、粘土(質が悪い)、紙粘土、下敷き、彫刻刀、単語帳、日本的な折り紙、温度計、虫めがね、磁石などがある。当地の鉛筆はよく折れる。B、HBの鉛筆を探すのに苦勞する。ドイツ製 Steadler が一般的である。

カセット、ビデオ—童謡、幼児用の話など、正しい日本語の習得のためにぜひ必要である。また、ビデオについては規制があるようなので、事前に問い合わせる。高学年ならば、好みの歌手のテープなども欲しい。

地球儀(英語のものはある)、世界地図、日本地図、地図帳など

その他の表類、ポスター、あいうえお表、学年別漢字、九九など
算数セット（1年生用）――数を習うためのおはじきなど
そろばん（4年の算数で使う）
習字用具
音楽器材――ハーモニカ、ピアノ、笛など
花の種子――理科の観察に必要、当地では入手困難である。

6. 家庭の使用人

6-1 運転手

(1) 雇用

それぞれの家庭の事情によって異なるが通例、運転手1人を雇っている。

当地の人（大家、カウンターパートなど）の紹介によって雇用することが多い。紹介者は、素性のしっかりした人が好ましい。それでも後にトラブルが生じた時、当地の習慣として紹介者は我関せずである。雇用にあたっては、下記のような契約事項について話し合い、契約書も作成し、後々のため証拠として残したい。

勤務方法によって若干異なるし、家庭の事情によっても異なるが、参考例は次のとおりである。

*勤務時間

通 い：7:00～15:00

住込み：一応12時間勤務

*休日、休暇

通い・住込み共：月2回または週1回、ハリラヤ休暇、特別休暇あり

*賃金

通い・住込み共：基本給90,000ルピア（試用期間中はもっと低くてよい）

*支払い方法

通い・住込み共：月末一括払い、月2度払い、週給など

*超過勤務

通 い：1時間につき700ルピア、早朝、深夜、休日出勤手当

住込み：随時、休日出勤手当

*食費

通 い：一切なし。19:00を過ぎると、食費として1,000ルピア渡している

住込み：メイド（後述）と同じ（給料に込みの場合もあり）

*その他の支給品

通 い：なし

住込み：石けん、洗濯用石けん、シーツなど

*退職金

通い・住込み共：月給の1～2ヵ月分（雇用期間による）

*試用期間

通い・住込み共：通常3ヵ月程度

*昇給

通い・住込み共：通例、断食明けに1割前後

*ボーナス

通い・住込み共：断食明けに給料の1ヵ月分と布代（20,000ルピア）

(2) 日常管理

ジャカルタと同じである。毎朝の点検、走行距離などの記録、車の清掃など習慣づける。また、ガソリンの購入は運転手に任せない方が賢明である。

(3) 教育指導

インドネシア人はとかくスピードを出したがる傾向がある。道路事情も悪く、オートバイ、ベチャ、自転車、人間などの急な飛び出し、交通法規の無視などが多いので、安全走行、安全速度の徹底をはかること。ドアの開閉なども運転手にさせること。命を預けるわけなので、雇用当初に徹底して教育することが肝心である。

(4) その他の留意点

該当情報なし。

6-2 メイド／サーバント

(1) 仕事の種類と人数

家庭の事情にもよるが、通例メイド2人、ボーイ1人を雇っている。メイドは、料理人1人、洗濯、その他の雑用1人、ボーイは床掃除、庭掃除などをし、庭師、ガードマンを兼ねる。料理ができないメイドでも、教えていると日本食もできるようになる。乳児専門のベビーシッターを雇う場合もある。

(2) 雇 用

雇用方法は運転手と同じである。メイド2人というのは、メイドの精神衛生上必要で、メイド同士お互いがうまくいくことが大切である。面接時に健康診断をすることが望ましい（実際には実施していない）。また、契約書作成も望ましいが、一般に読み書きが苦手という人が多いので、作成していないのが現状である。しかし、面接時にお互いが納得するまで、きちんと話し合っておくことが大切である。

その時、いちおうの身上調査、健康観察も忘れないこと。身分証明書（KTP）を提示してもらい、コピーをとっておくこと。

契約事項もそれぞれの家庭の事情によって異なるが、一参考例は次のとおりである。

- ・勤務方法――住込みが多い。
- ・勤務時間――5:00から夕食のかたづけまでである。
- ・試用期間――3ヵ月までである。
- ・休日、休暇――1ヵ月に2日程度（試用期間中はない）、ハリラヤ休暇、特別休暇がある。
- ・賃金、支払い方法――月額5万～7万ルピアを月末に支払う。（ただし、試用期間中は7～8割を支払う）
- ・食費――1週5,000ルピア、そのほか、米、砂糖、油などの現物を支給する例と、食費として支払わないで、給料に含め支給する例もある。
- ・その他の支給品――石けん、洗濯用石けん、シーツなどの寝具、鍋、コンロなど調理器具一式、食器類などを支給する。
- ・超過勤務――パーティなどで一定時刻を過ぎたら、500～1,000ルピア程度支払う。また、通常の勤務より多忙な時は、それに応じて随時支払う。
- ・退職金――月額額の1～2ヵ月分である。
- ・昇給――通例、断食明けに行なう。
- ・ボーナス――断食明けに、給料の1ヵ月分と布代（2万ルピア）を支払う。
- ・禁止事項――無断外出、無断で人を家に入れず、他人のものを無断借用しない。

い、などがある。

(3) 日常管理

料理人はわれわれの健康にもっとも関与する存在なので、衛生面での徹底をはかることが大切である。習慣づくまでは、夫人も台所に立ち、調理器具や器物が清潔に取り扱われているか、料理の仕方に手抜きなどないかに注意を払う必要がある。

洗濯人については、直接われわれの体には影響しないが、衣類をていねいに扱い、きれいに仕上げる技術を身につけさせる。また、洗濯枚数などにも気をつけること。ボーイは激務なので、健康に自信のある人がよい。

6-3 庭師、ガードマンなどの雇用

(1) 雇用

ガードマン専用の使用人をおいている家は少なく、ボーイが兼任している場合が多い。庭師も随時入れる家はあるものの、庭師専門をおいている家はない。通例ボーイが庭の手入れもしている（庭師の賃金は1人1日3,500ルピア程度）。

7. 交通事情

7-1 交通手段

(1) 一般事情

ジョグジャカルタへは空の便を利用する。ジャカルタ、バリからそれぞれ1時間弱、1日10~12便就航している。各地方都市への便もある。

鉄道、長距離バスが各地方都市へ運行されているが、利用する機会は少ない。

交通手段は、ほとんど自家用車である。市内には、ベチャ、市バス (Biskota)、コルトと呼ばれるミニバスなどがある。ジャカルタと比べると安心して乗車できる。

タクシーについては、ホテルに常駐している以外に、最近メーター制のタクシーが4社あり、町中いたるところでみられる。

(2) 自家用車を利用する場合

ジャカルタと比べてそれほど交通量は多くないが、交通ルールはあってなきがごとし、自分で運転することは極力避ける。

(3) レンタカーなどを利用する場合

トゥーナス (アンバルクモホテル内 電話 566488) に頼むと、車だけでなく運転手も派遣してくれる。

また、赴任後自分の自家用車が届くまで、通例2ヵ月近くを要するため、その間の車の調達を考えねばならない。大家から借りる方法のほか、次のところから借りることができる。ただし、運転手込みの契約である。

Mr. Yohanes Sunbodo Jl. Kaliurang, Km 65 TEL 562389

(4) 道路地図

日本のような正確な地図については不明である。ガイドマップについては、本屋で手に入る。

Gunungagung Jl. Panageran

7-2 交通事故

(1) 対処方法

日本と比べて車1,000台当たりの死亡事故は15倍にのほるといふ。日本人とわかると種々の問題が生じやすいので、警察の判断にゆだねること。

(2) 救急病院

ベテスタダ病院が救急指定で、救急車なども待機している。

(3) 盗難

該当情報なし。

7-3 交通違反

(1) 交通法規

日本と同じく左側通行である。法規はあるものの、前に述べたようにマナーは甚だ悪い。道路は狭く、横断歩道などはなく、ベチャも多いので、よりいっそうの注意が必要である。また、ナンバープレートは1年限り有効で、1年ごとに登録更新の必要がある。

Kantor Polisi Lalu Lintas (交通関係の警察)

Jl. Tentara Pelajar Badaran

(2) 対処方法

該当情報なし。

7-4 車の修理

(1) 部 品

ジョグジャカルタにない場合は、ジャカルタに発注する。その場合、半月ほど要する。

(2) 修理工場

Toyota Mataram Motor Jl. Solo 163 TEL 3615

タイヤのパンクについては、街中いたるところにある修理所に持って行く。板金、塗装の修理技術は、たいへんよい。

8. 通 信

8-1 電 話

(1) 一般事情

ジャカルタとほぼ同じであるが、市外通話が多いので、1ヵ月の電話代は高い。公衆電話は増えてきている。

(2) 国内電話

回線事情が悪く、ジャカルタなどへはなかなか通じない。50ルピア、100ルピアの2種類ある。

(3) 国際電話

外貨収入源であるせいか、わりとかかりやすくなった。日本からかけるより割高である。各所にある電話ステーション Warung Telekomunikasi (WARTEL) からかけるのがいちばん早く、21:00以降は割引もある。

8-2 電 信

(1) テレックス

テレックス回線は、ホテルなどで利用できる。

(2) ファクシミリ

ファクシミリはWARTEL、もしくはホテルのビジネスセンターを利用する。

(3) 電 報

電報はPERUMTEL およびWARTEL、中央郵便局で可能である。WARTELは私設の電電公社であり、ファックス、テレックス、国際電話、電報など通信に関係のあるものを有料で受け付けてくれる。

8-3 郵 便

(1) 一般事情

中央郵便局 (Kantor Pos Pusat)

Jl. Sukonandi TEL 5804~5807

月・水・金曜日の12:00~13:00の間、MMTCに移動郵便局が開設される。

(2) 課 税

小包はものにより配達される場合と、届いたとの連絡を受けてから中央郵便局へとりに行く場合とがある。パスポート(コピーで可)を持参した方がよい。税金は500ルピアから、荷物の重さおよび内容によって異なる。

9. マスコミ

9-1 新聞

(1) 主な日刊紙

英字新聞、当地語新聞は当地の業者に頼めば毎日宅配してくれる。連絡先は次のとおりである。

Menur Agency

Babadan-KD, VIII RT 1/159A, Gedong-Kuning

電話はないので、手紙で依頼すること。

英字新聞の「The Jakarta Post」は、月 11 万 6,000 ルピアであり、インドネシア語新聞「Kedaulatan Rakyat (KR)」は月 1 万 2,000 ルピアである。

(2) 本邦日刊紙

日本の新聞などは、ジャカルタの P.T. OCS Indonesia (電話 326704) を通じて郵送可能である。(例えば、朝日新聞は 1 カ月 20 万 3,000 ルピア)

(3) 欧米紙

該当情報なし。

9-2 ラジオ

(1) ラジオ放送局

ラジオ放送は、たくさんある。

(2) ラジオジャパン

ラジオジャパンは、昼間は聞き取れるが、雑音が入る。しかし、当地時間 5 時以降は、中国放送にじゃまされ、まったく聴きとれない。

(3) 任国で聴取可能なその他の外国放送

該当情報なし。

9-3 テレビ

(1) テレビ放送局

ジャカルタと同じである。ジョグジャカルタには 1994 年 10 月現在、民間テレビ放送局はない。

(2) テレビ受信

ホテルなどではパラボラアンテナの設置により、マレーシア、オーストラリア、フランス、中国の放送も視聴できる。

10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ

10-1 映画、演劇

(1) 映画館

唯一の娯楽であるので、たくさんの映画館がある。館内、座席なども日本より快適である。ほとんどがカンフーなどの娯楽映画である。ときどき、日本の映画も上映されることもある。

(2) 劇場

ガジャマダ大学キャンパス (Gedung Purna Budaya)、公会堂 (Senisono) などで公演されている。代表的なものは、やはり民族舞踊と影絵芝居である。

観光客向けに、民族舞踊はアンバルクモホテルのレストラン、ポロブドールで毎晩、Dalem Pujokusuman (王宮の南側) で月～金曜日の夜公演されている。

影絵芝居は、ホテルアルジュナプラザ (Jl. P. Mangkubumi) で週2回ぐらい、アンバルクモホテルの向かいのクラフトセンターで毎週月・水・土曜日の夜21:30から1時間、ニトウルで毎日、毎月第2土曜日は Sosono Inggil (王宮の南) で夜を徹して演じられている。

また、5～10月にはプランバナナ寺院の壮大な屋外劇場で、満月の晩を入れて、4晩連続、毎月1回または2回ラーマー・ヤナ物語の舞踊劇が演じられている。

その他、英語のジョグジャカルタ情報誌「YOGYA INFO」にて、各種イベントの情報が入手できる。

10-2 出版・書籍

(1) 一般事情

書籍はジャカルタから送られてくる。

(2) 書店

日本の書物は皆無に近い(手芸や服装の雑誌は若干ある)。英文の専門書、読み物はある。主な書店はグヌンアゲン書店 (Jl. Panageran)、グラメディア書店 (Jl. Jend. Sudirman) などである。

I K I Pの教科書は、大部分の書店においてはあがるが、マンダラ書店 (Mandala Jl. Ponjobinatang) が便利である。

10-3 語学学習

(1) 語学学習施設

レアリア (Realia) という外国人向けのインドネシア語学校がある。授業料は1時間1万6,000ルピアである。(回数制)

また、英語学校はいろいろあり、希望により選択できる。授業料は週2回、1回1時間で月約2万ルピアである。個人教授はさらに高額となる。

(2) 家庭教師

ほかのところと違い、外務省、大学、その他の機関からインドネシア語またはジャワ語の研究者がガジャマダ大学に留学しているので、家庭教師を依頼することはできる。英語の家庭教師は自宅まできてくれる。ネイティブスピーカーの場合、1時間1万5,000ルピアである。

10-4 文化活動、文化施設

(1) 一般事情

ジョグジャカルタは学問の街といわれ、全国最大のガジャマダ大学をはじめ、I K I P、国立芸術大学（I S I）をはじめ大小50以上の大学がある。演劇、芸術、文芸そのほか文化面でも、活発な活動が続けられている。それらに魅せられて集まる外国人研究者、旅行者も多い。

博物館（Sonobudaya 王宮広場の前）には、ジャワ、バリのコレクションが展示されている。馬車博物館も同じところにある。また、王宮内も博物館となっている。

美術館はないが、グラメディア書店のホールや、探せばあちこちで美術展（無料）がよく開かれる。そのほか、動物園（Jl. Gembira-Loka）がある。

(2) 日本・任国友好協会などの有無と活動の内容

ない。国際的なものとして、インドネシア・フランス会館（Unbaga Indonesia Prancis Jl.Sagan）、インドネシア・オランダ会館（Karta Pustaka Jl. Sudiman）の2つがある。両方とも会員になれる。インドネシア・フランス会館では、毎週火曜日の晩、フランス映画を上映している。（英語字幕）

・International Pot-luck Party ー在ジョグジャカルタの外国人による集いである。月に1度、おのおのの国の料理を持ち寄り、また、ひとりが自由なテーマで講演を行なう。一般に英語がコミュニケーションの手段で、場所もローテーションによる。

・Ladies International Club ー月1回、外国人とインドネシア人の女性が集まり、ひとつの課題を設け、お茶を飲みながら話し合う。

(3) その他の文化活動、文化施設

ジャワの文化についての講演や、農村についての講演が定期的に催されている。また、1985年8月、ジョグジャカルタと京都府が姉妹都市になった。

10-5 写真、ビデオ

(1) 写真

フィルムは、コダック、フジ、サクラが売られている。値段は、36枚撮りで6,900ルピアである。写真現像は街中いたるところにある写真屋で可能である。（1枚250ルピアからで、45分でできるものもある）スライドの場合は、アルタ（Jl. Solo）、デュタ（Jl. Perwakilan）など大きな店のみ取り扱うが、ジャカルタかマランに送られるので手間がかかる。

カメラは、ヤシカ、フジカ、キャノンなど日本のメーカー品が多いので、フラッシュなどの小物の調達が可能である。なお、高級品についても購入可能である。

(2) ビデオセット

大きな写真店ではビデオ撮りも引き受ける。しかし、2時間50万ルピアと高価である。ビデオ機器およびテープは売られている（ベータ方式。放送はPAL方式）。通関などについては、ジャカルタを参照のこと。

(3) ミュージックテープ

テープ店に相当数揃えられている。ロック、ポピュラー、ジャズ、クラシックなど西洋音楽は海賊盤があふれていて、2,000～4,000ルピアという安価で入手できる。当地の民族音楽は3,000ルピアほどで、種類も豊富である。空テープは2,500ルピ

ア (60分) であり、日本製も出回っている。

10-6 音楽鑑賞、演奏、民族楽器

(1) 音楽会、コンサート

西洋音楽の場合は、オランダ会館において、時折良質のコンサートが開かれる。海外からの演奏家も招かれている。フランス会館においても、パントマイムなどのパフォーマンスがある。ISIでも音楽会が開かれる。

また最近、Jl. Kaliurang に教育文化会館 (PPPG) が新設され、音楽会や展覧会が開かれている。

(2) コーラス、演奏グループ

ジョグジャカルタ市内の最良のコーラスグループは、Kotabaruのカトリック教会のグループである。しばしば教会においてコンサートが開かれる。ロックグループもガジャマダ大学のキャンパスなどで、野外コンサートを開くことがある。邦人は個人的に参加可能である。

(3) ピアノなど

ピアノは、エレクトーンに押され気味で、唯一オランダ会館でまれにコンサートが催されるのみである。エレクトーンは、国際級ホテルのレストランで使用されており、学んでいる人も多い。ヤマハ音楽教室がかなり進出している。

(4) レコード

カセットテープが出回っており、レコードは皆無に近い。

(5) 民族楽器

ジャワ金属楽器オーケストラのガムランが王宮をはじめ、大学、ホテルなどさまざまなところにおかれ、常時演奏されている。学習集団はいたるところにあり、外国人も気軽に参加できる (各大学や舞踊学校のグループなど)。ただし、定まったメソッドがないので、みようみまねで習得するしかない。

(6) その他の楽器

該当情報なし。

10-7 手芸、絵画、美術工芸

(1) 手芸

手芸用品の調達が可能である。ミシンは高価であり、大部分が足踏みである。洋服の仕立ては安い。

民芸品はバティック (ジャワ更紗)、金・銀製品、籐工芸品、皮革工芸品などである。

(2) 絵画、美術工芸

日本のように小学校から高校を通じた基礎的な美術教育は、ほとんど行われていない。グループ活動はあるようで、ときどき展覧会があちこちで催されている。伝統的なバティック絵の絵師、職人は非常に多い。優れた作品もみかける。(非常に高価) バティックは学習可能である。

10-8 趣味

(1) 園芸

街角で種苗などが売られており、園芸専門店もある。花屋が軒を連ねているとこ

ろもある。(国営ラジオ局前) 盆栽も盛んで、趣味にしている人も多い。

(2) 釣り

釣り堀があちこちにあり、結構楽しめる。道具も当地で入手可能である。南へ30キロメートルほど行けば海で釣りも可能であるが、波が荒いので要注意のこと。

10-9 娯楽、遊戯など

(1) 娯楽、遊戯、ゲーム

娯楽は映画のみという感じである。ほかにビリヤードがあるくらいである。子供用遊園地、ゲームセンターはたいていのデパートにあり、楽しめる。

なお、カラオケは現在2~3軒あり、日本の歌もある。アンバルクモホテル隣のヤシの木、オシンなどが有名である。各ホテルにもカラオケバーが増えてきた。

(2) 芸能興行

ジャワの民族舞踊、影絵芝居などがある。代理店(トゥーナスなど)を通して情報や切符を入手するとよい。

10-10 スポーツ

(1) ゴルフ

ゴルフ場が飛行場の近くにあり、いつでもプレーできる。ゴルフ用品は当地で購入可能であるが、日本から持ってきた方がよい(税関の問題があるので、使用中のものを持参のこと)。平日は3万ルピア、休日は4万ルピア(グリーン・フィー、キャディー・フィー含む)のほかに、キャディーヘチップとして5,000ルピアが必要である。貸クラブ(1万ルピア)もある。

(2) テニス

テニスコートは多数ある。テニスクラブに参加し、プレーした方がよい。大家かカウンターパートに相談すると、適当なところを紹介してくれる。

(3) 水泳

公共のプールがあり、インターナショナルスクールの生徒達はよく利用しているが、専門家および家族はたいていホテルのプールを利用している。

海水浴は、車で40分ぐらい南下したところに海岸があるが、インド洋で波が高く、遊泳禁止となっている。

(4) その他のスポーツ、用具、ウェア

ビリヤード、バレーボール、サッカー、バスケットボール、バドミントン、エアロピクス、ジャズダンス、民族舞踊などがある。興味に応じて、大家、カウンターパートに相談するとよい。

Hashー毎週土・日曜日の午後、在ジョグジャカルタの外国人が中心となりジョギングをする。アンバルクモホテルに走る行程表がおかれている。

(5) スポーツクラブなど

市内各所およびホテルにフィットネスセンターがあり、エアロピクスなど盛んである。

10-11 子供の遊び

道具を備えた児童公園は動物園内およびカリウラン(高原保養地)にある。玩具は特殊なもの(あいうえおの積み木など)でない限り、購入可能である。日本製も

多い。

当地はスピードを出し過ぎの車や、無謀運転が多いので、交通事故にあわぬよう道路での遊びは絶対させないこと。

11. その他のサービス

11-1 金融機関

該当情報なし。

11-2 コンピュータ

該当情報なし。

11-3 美容院

多い。カットは2,500ルピアからである。男女とも Kota Baru の Rudi Haeli Sumarno がよい。

理髪店も多い。ただし、散髪後シャワーの必要がある。500～5,000ルピアである。

化粧品は、日本のメーカーが入っていないので夏用のものを持参した方がよい。資生堂のものはいくらもある。石けん（ラックス）、シャンプー、リンス（花王）はある。子供の散髪用具を持参するとよい。エステローダーなど外国製品は、当地でも入手可能かつ安価である。

12. 観 光

12-1 地方旅行上の留意点

ジャカルタと同じである。

12-2 主要観光地・保養地ガイド

ジョグジャカルタの観光地といえば、なんといっても、カンボディアのアンコール遺跡と並び称されるボロブドール仏教寺院遺跡である。北へ車で1時間ぐらいである。そのほか、プランバナナ寺院（ヒンズー教寺院遺跡）、ジャワ王宮、カリウラン、パロン海岸などである。

主な特産品は、パティック、銀製品、竹細工、籐製品、皮革製品などである。Ny. Suharti のアヤムゴレン（鶏のから揚げ）をいちど試されたい。

12-3 旅 行

(1) 自動車

ジャカルタ編参照のこと。

(2) バ ス

ジャカルタ編参照のこと。

(3) 鉄 道

ジャカルタと同じである。

(4) 航空機

ジャカルタと同じである。

12-4 旅行代理店

J I C A でよくつかう旅行代理店は、トゥーナス（アンバルクモホテル内 TEL 566488 Ext. 744）である。

12-5 ホテルなど宿泊施設の手配

経験上、代理店を通した方が有利であるし、料金も安い。J I C A との契約料金となっており、特に上記のトゥーナスはほとんどなんでも相談にのってくれ、信頼できる。

13. 治安、緊急時の心得

13-1 暴動、クーデターなど

(1) 緊急時の連絡

ジャカルタより治安状態はかなりよいとはいえ、パサール・プリンハルジョ（いちばん大きい市場）でスリにあたり、泥棒に入られた経験者がいるので、注意するに越したことはない。

ジョグジャカルタ日本人会があり、日本人相互の緊急連絡、安全のための情報交換・親睦をはかっている。

緊急時の連絡電話番号は、次のとおりである。

警察署 110

消防署 113

救急車 118

電気についての問い合わせ（停電など） 電話 562622

電話についての問い合わせ（故障など） 電話 117

そのほか、各自治会ごとにエルテーと呼ばれる自治会長がいる。何かの時はその人に連絡するとよい。

13-2 強盗、盗難

(1) 一般的治安状況

車の盗難はほとんどないが、なかの金目のもの目当てで破損されたりするおそれはあるので、運転手は常に車のそばにいてることを義務づける。

(2) 防犯対策

ボーイ兼夜警を雇っている家庭が多い。また、自治会単位で夜警が回っているところが多く、月額 2,500 ルピア程度支払っている。

(3) 被害時の心得

ジャカルタとほとんど同じである。

13-3 火災、風水害、地震

(1) 一般的災害発生状況

該当情報なし。

(2) 防災対策

ジャカルタとほとんど同じである。

(3) 被災時の心得

該当情報なし。

14. 出入国手続および帰国手続

14-1 入 国 時

- (1) 空港施設概要
該当情報なし。
- (2) 入国手続書類
該当情報なし。
- (3) 入国審査
ジャカルタと同じである。
- (4) 税関検査
ジャカルタと同じである。
- (5) 空港内での留意点
ジャカルタと同じである。
- (6) 空港からのトランスポートーション
ジャカルタ編参照のこと。
- (7) その他の留意点
該当情報なし。

14-2 出 国 時

- (1) 出国時の概要
ジャカルタと同じである。
- (2) 出国手続上の留意点
ジャカルタと同じである。

14-3 帰国手続

- (1) 帰国時に必要な事務手続
ジャカルタと同じである。
- (2) 車の処分
該当情報なし。
- (3) 家財道具の処分
該当情報なし。
- (4) 住宅の明け渡し
該当情報なし。
- (5) 外貨持出し規制
該当情報なし。

15. 私財の輸送、引き取り、購入

15-1 家財道具

(1) 輸送業者

インドネシア国内の輸送は、日通S K T支店がすべてやってくれる。

電話 021-5706180 / 021-5706210

(2) 輸入手続

ジャカルタと同じである。

(3) 家財道具の購入

該当情報なし。

15-2 自動車

(1) 一般状況

ジャカルタと同じである。

(2) 輸入手続

該当情報なし。

(3) 任国での購入

ジャカルタと同じである。

(4) 自動車登録

自動車の登録は Kantor Polisi Lalu Lintas にする。

ブローカーかカウンターパートに依頼するとよい。

(5) 免許証取得

免許証については、国際免許証でも、日本の免許証をそのまま持参しても当地の免許証に5万～6万ルピアで切り替えられる。ただし、当然のことながら切り替えの間、国際免許証では運転できるが、日本の免許証では運転できない。しかし、出発前の忙しさを考えると、日本の免許証を持参して、当地で切り替えをした方がよい。

(6) 保険、税金

ジャカルタと同じである。

16. 社 交

16-1 風俗習慣

ジャカルタと同じである。ただ、ジョグジャカルタには王宮があるせいか、ジャワ人独特の身分意識が今なお残っている。1945～49年の間、いわゆるオランダとの独立戦争時にはジャカルタを終われたスカルノ大統領(当時)が一時首都をおいたところでもあり、インドネシア共和国成立にシンボリックな意味合いを持つ町でもある。したがって、ジョグジャカルタの人々はきわめて誇り高い気質を有している。上品さ(halus、sopan)を第一に重んじ、粗野な言語・行動をもっとも嫌う。ジョグジャカルタの人々は常にほほえみをたたえ、感情をあらわにせず、もの静かなふるまいを美德とするが、外柔内剛な面がある。インドネシア人でも他地方からきた人には、ジョグジャカルタの人々は本心がわかりにくいという。ジョグジャカルタに居住する人は、このあたりの機微を心得ておく必要がある。

京都に似た古都で、近所づきあい、親戚づきあいを大切にす。礼儀作法を重んじる。

16-2 パーティでの留意点

服装は、男性は長袖バティック、女性も長袖着用のこと。

16-3 来客時の留意点

「どうぞ」というまでは、食べたり飲んだりしてはいけない風習があるので、「どうぞ召し上がってください」など、来客時には心を配ること。

16-4 訪問時の留意点

「どうぞ」といわれるまでは飲食物に手をつけない。一気に飲みほさないこと。こちらでは一般に、全部を飲まないで少し残す習慣がある。

16-5 禁止されている言動

人に物を渡す時、左手を使わないこと。大声で人をののしったり、叱ったりしないこと。人前で使用人たちを怒鳴ったりしないこと。

17. 任国官公庁

該当情報なし。

18. 在外日本関係機関など
該当情報なし。

19. 地方都市

該当情報なし。

任国情報をご利用の皆様へ

この任国情報は、国際協力のために赴任されるJICA長期派遣専門家、JICA職員等の方々に、任国での生活上必要な最新の情報を提供する目的で作成されました。

本書の原データは国際協力総合研修所内のデータベースに蓄積されており、新しいデータが入手され次第、逐次更新できるシステムにしております。

現在までに、下記の国々について任国情報が整備されております。なお、政府技術協力のために赴任するJICA役職員および派遣専門家は、技術協力協定や要請文書などの外交関係により、任国への入国および滞在にあたって特別の条件が付され、一定の義務が免除されるなどの特権が付与されています。本情報はこれらの条件に基づいた赴任マニュアルです。したがってご利用はJICAの用務による業務渡航者に限らせていただいております。

また、本情報は外国人専門家という特殊なステータスによる生活ガイドであって、それぞれの国の人々の一般的な暮らしぶりを紹介するものではありません。各国の一般的な各種事情については、JICA図書館に多数資料をそろえておりますので合わせてご利用ください。

-----アジア地域-----

1. バングラデシュ
2. ブータン
3. ブルネイ
4. カンボディア
5. 中華人民共和国
6. インド
7. インドネシア
(ジャカルタ、バンドン、ジョグジャカルタ、メダン)
8. 大韓民国
9. ラオス
10. マレーシア
11. ミャンマー
12. ネパール
13. パキスタン
14. フィリピン
15. シンガポール
16. スリ・ランカ
17. タイ (バンコク、チェンマイ、コンケン)
18. ヴィエトナム

-----中近東地域-----

1. アルジェリア
2. バハレーン
3. エジプト
4. イラン
5. ジョルダン
6. クウェイト
7. モロッコ
8. オマーン
9. カタール
10. サウディ・アラビア
11. スーダン
12. シリア
13. テュニジア
14. トルコ (アンカラ、イスタンブール)
15. アラブ首長国連邦 (ドバイ、アブ・ダビ、アラブ)
16. イエメン (サナ)

-----太平洋地域-----

1. フィジー
2. キリバス
3. ミクロネシア
4. パラオ
5. バブア・ニューギニア
6. ソロモン諸島
7. ヴァヌアツ
8. 西サモア

-----欧州地域-----

1. カザフスタン
2. キルギスタン
3. ポーランド
4. タジキスタン
5. トルクメニスタン
6. ウズベキスタン
7. ハンガリー

-----アフリカ地域-----

1. ベナン
2. ブルンディ
3. カメルーン
4. カーボ・ヴェルデ
5. コモロ
6. エチオピア
7. ガンビア
8. ガーナ
9. ギニア
10. コートジボアール
11. ケニア
12. リベリア
13. マダガスカル (アンタナナリボ、ディエゴ・スアレス)
14. マラウイ
15. モーリシャス
16. モザンビーク
17. ニジェール
18. ナイジェリア
19. ルワンダ
20. サントメ・プリンシペ
21. セネガル
22. セイシェル
23. ソマリア
24. タンザニア (ダルエスサラーム、ザンジバル)
25. トーゴ
26. ザイール
27. ザンビア
28. ジンバブエ
29. スワジランド
30. ボツワナ

-----中南米地域-----

1. アルゼンティン
2. ボリヴィア (ラ・パス、サンタクルス)
3. ブラジル (ブラジリア、サンパウロ、リオデジャネイロ、ポルトアレグレ、ベレーン)
4. チリ
5. コロンビア
6. コスタ・リカ
7. ドミニカ共和国
8. エクアドル
9. グレナダ
10. グアテマラ
11. ホンデュラス
12. メキシコ
13. パナマ
14. パラグアイ (アスンシオン、エンカフシオン)
15. ペルー
16. セント・ルシア
17. トリニダッド・トバゴ
18. ウルグアイ
19. ヴェネズエラ
20. ニカラグア

「任国情報（インドネシア・ジョグジャカルタ編）1995年版」

平成7年3月20日発行

編集・発行所 国際協力事業団 国際協力総合研修所

〒162 東京都新宿区市谷本村町10番5号

電話 (03) 3269-2357

編集協力 財団法人 日本国際協力センター

